



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 30

2009.2.25 (No.2537)

第2560地区ガバナー／馬場 信彦
 会 長／中村 和彦
 会長エレクト／菊池 渉 (クラブ奉仕A)
 副 会 長／樺山 仁 (クラブ奉仕B)
 幹 事／石月 良典
 S A A／明田川賢一
 会 計／杉山 幸英

例会日／毎週水曜日 12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

■本日の出席会員数:59名中39名
 ■先々週出席率:83.93%

【ビジター】

三條北RCより

・米山忠俊さん、 武田恒夫さん

【先週のメイクアップ】

[2.19] 燕RCへ

・渡邊喜彦さん、 西川文夫さん
 ・加藤紋次郎さん

[2.20] 吉田RCへ

・渡邊喜彦さん、 西川文夫さん

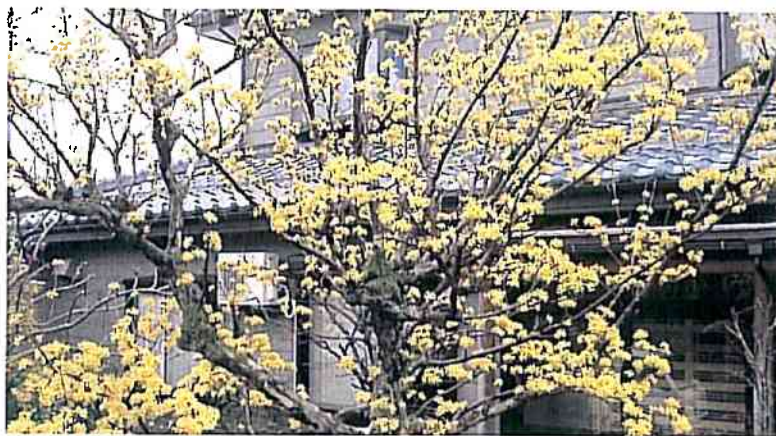
[2.24] 三條北RCへ

・斎藤弘文さん、 近藤雄介さん
 ・西川文夫さん、 五十嵐晋三さん
 ・渡邊喜彦さん、 藤田絢一さん



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ



サンシュユ

会長挨拶

中村和彦 会長



ろうざんぎょう
籠山行

かんきんぎょう
看経行

じょうざんぎょう
常行三昧行

じょうざんぎょう
常座三昧行

かいほうぎょう
回峰行

かいほうぎょう 比叡山の回峰行

比叡山天台宗の行は60日の回峰行から次第にきびしい行へと進む。

- ・山籠り12年間の行。病気になっても親が死んでも下りられない。病気は自分自身で癒す。
- ・毎日法華経を全巻読み上げる行。読経には7時間も要する。
- ・にない堂に安置された仏像の周囲を90日間休まず眠らず回る行。堂には突かい棒があつて眠いときにはその棒にもたてれ休むだけで、横にはなれない。坐るのは大便のとき。最後は意識がぼんやりし、足が腫れて上がらなくなる。
- ・死ぬ人が出たので明治以来中止されていたが、最近また始められた。
- ・90日間座りつづける行。便所、沐浴、食事以外は座禅を続け、横になってはいけない。
- ・比叡山30峰を、素足に草鞋わらじの昔の姿で240カ所礼拝して回る行。
- ・夜12時起床、お勤めをして2時出行でぎょう、6時間ほど駆け回って夜8時ごろ帰着する。連続100

せんにかかいほうぎょう
千日回峰行

日間行うのを基本的回峰とする。

・7年間かけて千日を回る行。1,2,3年
目が各100日、4,5年が各200日で計
700日回る。

冬は積雪で歩行不自由なので、春か
ら秋の間に回る。

意志強固で実績がある体力充実した
人しか許されず、比叡山の12年堂山
にはいることと独身が原則。妻帯者
付可。

回峰が終わると、仏になる堂入りの行がある。仏
に近づくための行が終わって自身が仏になる行で、
断食、断水、不眠不臥、横になることも眠ることも
不可で9日間お勤めをつづけ、不動尊の真言を10万
遍唱える。

夜2時には仏様のお水（赤水）を替える。外に出
るのはこの時だけ。

5日目には瞳孔が開き、6日目ごろから死臭がし
始めるそうである。

過去に10日目になって死んだ例があるので、9日を
生死の限界とみたのである。

この行を終えた人を阿闍梨あじやりとって仏の境地しに至
極ごく近づいた人とされるのである。

即身成仏そくしんじょうぶつとは煩惱を脱して悟入ごにゅうする意で、この行
を終えて靈感が得られるそうである。

さらに6年目に赤山禅院回りという行があり、比
叡山から赤山禅院まで回ってくる、1日60キロを毎晩
100日間続行する。

7年目には京都大回りという行。これは1日80キロ
を毎晩続けて100日間行う。

つづいて比叡山の峰から峰へ30キロをまた100日
間回る。

これが千日回峰行である。

この千日回峰行を終えた人を称して大行者阿闍梨だいぎょうじやあじやり
という。

行者は普通の歩き方でなく走るように歩く。走り
ながら休み、走りながら眠る。

眠る時間は約2時間から3時間くらいという。

しかも獣道けものみちさながらにけわしい。千日回峰を終え
ると、7日間断食して10万本の護摩を焚かねばなら
ない。

誰もがこの修業ができるという保証はなく、始め
たら止めることはできない。

途中で止めるなら死ねということ、行者の白装
束ししやうぞくは死装束の意味。道の所々の墓標はびょうに何百日とある
のは、何百日に亡くなったとの意味である。

ニコニコBOX

米山忠俊さん（三条北RC）

こんにちは、三条北RCの米山です。植木年度で第
4分区のアシスタントガバナーをやらせていただ
くことになりました。今日はご挨拶に伺いました。
これから大変お世話になります。

同行の武田会員共々ありがとうございます。

武田恒夫さん（三条北RC）

初めて参加させていただきます。

よろしく願い致します。

中村和彦さん

小越さん、卓話楽しみにしています。

米山さん、来年はご苦労様です。

熊倉昌平さん

北RCの米山さん、武田さんを歓迎申し上げます。

小越さん、卓話ありがとうございます。

小越憲泰さん

つたない卓話ですが、お付き合いの程よろしくお
願い致します。

渡辺勝利さん

小越会員、卓話ありがとうございます。

梅の花の季節、春の訪れを期待します。

丸山行彦さん

米山次期アシスタントガバナーを歓迎します。

小越さん、卓話ご苦労様です。お話し楽しみです。

樺山 仁さん

今週末の2月28日にNHKでPM9:00より白洲次郎
のドラマが見られます。私の一族の一人としての
ドラマ化です。カントリージェントルマンの話の
ようです。楽しみです。

菊池 涉さん、

本日出席できませんが、米山次期AGを歓迎致します。

斎藤真澄さん、

久しぶりの出席です。

小越会員の卓話、楽しみです。

石倉政雄さん、 石塚欣司さん、 阿部吉弘さん、
会田二郎さん、 野崎喜一郎さん、五十嵐昭一さん、
帰山 肇さん、 五十嵐浩さん、 川瀬康裕さん、
外山雅也さん、 石月良典さん、 山田富義さん、
明田川賢一さん、松永一義さん、 船越正夫さん、
若槻八十彦さん、米山智哉さん、 高橋 司さん、
杉山幸英さん、 捧 賢一さん

小越さん、卓話ご苦労様です。

楽しみにしております。

2月25日分 ￥ 32,000

今年度累計 ￥830,000

3月のお祝い

◎会員誕生祝

- 2日 日戸平太さん
- 4日 浅野金治さん
- 8日 伊藤寛一さん
- 16日 小出子恵出さん

◎夫人誕生祝

- 1日 石倉和美さん (政雄)
- 11日 渡邊洋子さん (喜彦)
- 16日 熊倉恵子さん (昌平)
- 16日 杉山敏子さん (幸英)
- 17日 高橋恵子さん (司)
- 19日 小林由美子さん (敬典)
- 23日 加藤一代さん (紋次郎)
- 29日 野水富子さん (文治)

◎結婚記念祝

- 7日 小宮好智さん (智恵美さん)
- 16日 荻根澤隆雄さん (愛子さん)
- 20日 石倉政雄さん (和美さん)
- 21日 野崎喜一郎さん (ミチコさん)

◎100%出席賞

- 9年 小越憲泰さん
- 2年 明田川賢一さん



卓 話

小越憲泰 会員

話をかたち



1月はロータリー理解推進月間という事で、私とその卓話をする予定でしたが、急な商談の為欠席してしまいました。それでもう卓話は無いと思っていました。しかし世の中はそんなに甘くありませんでした。近藤委員長はちゃんとこの日を用意しておられました。

ロータリー理解推進月間は会員にロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、当クラブの活動に寄与していただくのが目的であります。

ロータリーの歴史について少しお話をしてみます。

シカゴの36歳の弁護士ポール・ハリスを中心として1905年2月23日にシカゴロータリークラブが発足しました。「定例の会合」「一人一業種」が原則でした。発足当初はお互いに親睦を深める社交クラブでしたが、やがて会員の事業にお互いが利便を図り合う「相互扶助」の考え方が発生してきました。ロータリー運動は正にエゴイズムの中から出発したのです。

「会員の事業上の利益の向上を図るために会員同士の事業扶助」が活性化され、やがてそれは積極的な「互惠取引」に発展して行きました。当時(1906年)のシカゴクラブのパンフレットには、会員になることによって事業上のメリットが得られることが明記され、会員が商品や原材料を購入する時には会員相

互の取引を義務づけ、更に原価で提供することが原則とされていました。会員相互で商品や原材料を原価で取引して、それを一般の人に売って大きな利潤を上げるのですから、こんな効率的な話はありません。この制度は会員の事業に大きな経済効果を生み出し、零細な企業主でもロータリークラブに入会すれば必ず事業は拡大し、大金持ちに成るとさえ言われました。

しかし、身勝手なことが何時までも続く道理が無く、こうした行為に対する一般の人から避難が高まり、シカゴクラブの定款に社会的な行動に関する項目が加えられ、初めて「奉仕」という概念が芽生えることになりました。そしてその後、様々に紆余曲折しながらRIの現在の状況に落ち着いたということになります。

次に例会についての話しに移ります。ロータリーの例会は能率良く集まる為に食事をするという歴史的事実から慣習化したものであり、食事抜きは外国ではさほど珍しいものでもないそうです。アメリカでは10ドルから20ドル払って各自がめいめい好みの食券を購入するのが通例であり、むしろ食事費込みで会費を徴収することが普通になっている日本のロータリークラブの運営方法が例外だそうです。

ロータリーの正式な会合は例会であり、クラブ協議会・IM・地区協議会・国際協議会等がこれに次ぐ重要な会合と位置付けられております。例会の目的は職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を図ることにあり、その結果として奉仕の精神の心が育まれてきます。自己改善は終生続けるべきで、ロータリアンには定年はないし、ロータリー運動には終結もありません。例会出席がロータリー・ライフの前提と言われる由縁がここにあるのです。

以上は2005年の2560地区協議会で2680地区田中毅バスターガバナーの基調講演から引用させていただきました。

ロータリークラブとライオンズクラブの違いですが、ロータリークラブはアイ・サーブ(個人で奉仕)、ライオンズクラブはウイ・サーブ(団体で奉仕)であります。

国際ロータリークラブは200以上の国に広がり、クラブ数33,114、会員総数1,206,089人です。日本のローターのクラブ数は2,308、会員数96,246人です。

この2560地区のクラブ数は57、会員数は2,227人です。この2560地区は昨年・一昨年の2年連続会員増強日本一を達成しております。

13年前の資料によると、その当時の三条市の人口は85,691人でロータリークラブは3クラブありました。会員数は213人で、会員1人当たりの人口は402人であり、新潟県内で第1位でありました。

現在三条市の人口は105,631人でクラブ数4で会員数は213人、会員1人当たりの人口は455人です。

当クラブも含めて会員の数が減少しているのが分かります。クラブ活性化の為に私達一人一人が新入会員の増強に努めていかなければなりません、しかし、三条市だけを取り上げてみますと、市内には4つのロータリークラブと5つのライオンズクラブがあり、市民の大人から生まれたばかりの子どもの約250人に一人が何処かのクラブに所属していることとなります。この事実は確かなことではありませんが、多分県下1位のはずです。歴代のガバナーは異口同音にクラブ活性化の為に会員増強と言われておりますが、地域毎の人口当たりの具体的な増強数値を示してもらいたいものです。

ロータリーは歴史的に見ても職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々まで拡大するにつれて、ロータリーは世界に目を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面に亘って多大な貢献をしています。つまり、ロータリーは親睦団体や慈善団体でなく、奉仕団体ということです。又、ロータリーの奉仕は意識でなく行動がなければ奉仕とは言えないと言われております。ロータリーの友には各地の具体的な奉仕活動が記載されておりますので、是非一読していただきたいと思えます。

ロータリアンは奉仕活動に積極的に参加することによってロータリーを理解し、そこからロータリアン同士の親密なお付き合いが出来るのではないのでしょうか。

話しがそれてしまいますが、最近各種のロータリーの大会で、当クラブの席での空席が多く目に付くようになりました。そのほとんどが無断欠席のようです。仕事の上で無断欠席なら即取引中止になりかねません。

これはロータリアンとしての自覚のなさではないかと思われてなりません。是非入会時の初心を思い出していただき、積極的な参加をお願い致します。

私どもの会社は今年40年目であります。過去を振り返ると説明の出来ない不思議なことが結構あるものです。

先ず第1番目は私どもの会社が今日存在していることあります。23歳の若造が興した会社が40年目を迎えたのです。殆ど実務経験の無い私が無謀な独立をしました。ましてや工場も立ち上げてしまいました。私は未だ工場の作業が一切できません。全く無茶な39年間あります。

次に栄町の工業団地に移転するときのことです。創業の時から新潟中央銀行だけの取引でしたが、三条信金から熱心な営業をしていただいておりますので、移転の全ての資金の手当てを信金と新潟中央銀行の協調融資ですること計画を進めていた所、突然、土地代金を支払う直前になって中央銀行から信金との協調融資を破棄して欲しいと申し入れがありました。要するに中央銀行が単独で全ての資金を融資するとの話しでした。明日明日、土地代金を支払う時になって、いくらメイン銀行であっても理不尽な話しをそのまま受け入れてしまい、信金との約束を反故にしてしまったら経営者としての信義が問われると思ひ、斎藤先輩に相談に行きました。直ぐに斎藤さんは私を信金本店に連れて行き、今理事長の杉野さんに俺が保障するから何とかして欲しいと申し入れてもらいました。その当時は殆ど信金との取引が無かったにも関わらず、杉野さんは斎藤さんの話しを聞くと即決で全ての資金を融資することを約束してくれました。私は直ぐに中央銀行に行き、全ての解約手続きを行いました。その約1か月後にその時の支店長転勤しました。それから今日まで信金と取引させて貰っておりますがあの時中央銀行の言い成りになっていたら中央銀行の破綻と同時に私どもの会社の債務が整理回収機構に回され、今日ここにいることは無かったと思うと、背筋がゾウツとしてきます。

又、不思議なことがありました。北海道の方から突然電話があり、回転寿司の店をやりたいので直ぐに来て欲しいとのことでした。その時、当社は仕事もお金も無い状況でしたので藁をも掴む思いで北海道の北見に出かけました。お客様は直ぐに開店したので函面と見積もりが出来たら次に来る時、契約をして半金を払うと言ってもらいました。1週間後再び訪問し、お金をいただきました。

仕事が無かった時でしたので、お客様の要望より早く納品することができ、残金もいただきました。

そして、その回転寿司のお店が無事オープンしたのですが、オープンから1か月位してからそのお客様が亡くなられたと電話があったのです。お客様との何回かの打ち合わせ中もしつこく何故当社のことを知っておられるのか聞きましたが、とうとう聞かせてもらえませんでした。

本当に長く生きておりますと理屈抜きのことがあるものです。

次週例会 3月11日

外部卓話

「元気な人には訳がある No.2」

ガレージ

エアロックストラクター 水科江利子 様

次々週例会 3月18日

「会長エレクト研修」報告

